

上回る状態であるが、95～98%が植物性食品摂取によるものである。また蛋白質特に動物性蛋白質摂取は、基準量の20%以下で、脂肪、ビタミンAの摂取の少ないのが目立っている。両地区共ほとんどが自給自足によるため、食糧構成は依然として、著しく米食偏重による食形態が営まれている現状で、穀類、いも類の摂取量が多い。時期的なものとして、馬鈴薯、玉葱の摂取が目立ち、その他肉、卵、乳類の摂取はほとんどなく、ついで油脂類の摂取が少ない。またCa摂取は満たされているが、家屋の構造上、日光照射が少なく、利用が十分でないように思われる。

A-53 京都府宮津市木子・駒倉住民の栄養摂取の実態

京都府立大 山本 キヨ
○北島 洋子

1. 両地区はいずれも前回で述べたごとく、交通不便な典型的僻地農山村である当住民の栄養摂取の実態を明らかにする目的で、本調査を試みた。

2. 昭和39年7月21日～26日までの6日間行なった。調査員は、15名が2人1組として毎日、各世帯訪問し、記入要領の指導、検討を行なった。しかして連続6日間における(イ)食事状況、(ロ)食事の料理名、(ハ)摂取した食品の名称及び分量等を調査した。集計は、国民栄養調査の方法に準じて行ない、両地区共、世帯別、成人1人1日当たりの栄養摂取量を算出し、1週間平均の栄養摂取量と昭和38年度国民栄養調査全国平均、昭和45年度目標値等とを比較検討した。

3. 1週間平均の成人1人1日当たりの摂取熱量は、木子2,372 Cal、駒倉2,356 Calと昭和45年度目標値を